

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

健康で安心感のあるくらし						
分類	発言順	会派名	質問者	大項目	中項目	小項目
保健・医療	②	三輝会	月橋 寿文	3 医療的ケア児への支援について	(4) 市立三次中央病院への医療的短期入所の見直しについて	ア) 三次中央病院への医療的短期入所の回数の増加や連泊を望まれる声があるが、対応していく予定はあるか伺う。
	⑤	清友会	重信 好範	1 本市の就労支援等、みよしアントレーナーの取組の成果、就職氷河期世代等への支援策について	(4) ひきこもりに対しての社会参加支援について	ア) ひきこもりの方への支援への取組について伺う。
						イ) ひきこもりの方への具体的な支援の見える化について伺う。
						ウ) ひきこもりの相談件数は年々増加しているが、相談体制の強化について伺う。
						エ) 早期解決にはアウトリーチ支援や関係部署との連携が必要であるが、考えを伺う。
	⑧	明日への風	増田 誠宏	2 教育環境に係る諸課題について	(2) 三次市医師育成奨学金貸付事業の課題解決に向けた取組について	ア) 医学部進学への高いハードルに対して、教育委員会としてこの事態をどのように認識しているのか。
					イ) 制度の周知と学習意欲を高める支援策を小中学校段階からどのように推進していくのか。	
	⑨	明日への風	徳岡 真紀	3 多文化共生の推進と、誰一人取り残さない地域づくりについて	(4) 多文化共生推進における具体的な取組について	カ) 医療機関との連携について伺う。
	⑩	会派 未来	竹田 恵	2 医師育成奨学金貸付制度について	(1) 2021年度から導入された医師育成奨学金貸付制度の活用状況と制度の見直しについて	ア) 医師確保にむけた本制度の活用について見解を伺う。
					イ) これまでの年度ごとの相談件数と相談内容から活用されていない課題分析について伺う。	
	⑫	公明党	中原 秀樹	3 RSウイルスワクチン接種の助成制度について	(1) RSウイルス感染症の現状と課題について	ア) RSウイルス感染による急性の呼吸器感染症は年齢に関係なく何度も繰り返し、初回感染時はより重症化しやすく、特に生後半年以内の幼児が感染した場合では、重症化のリスクもあると言われている。本市での感染状況について伺う。
					イ) RSウイルス感染症の流行時期は、初夏から夏にピークであるとされ、これまで60歳以上のワクチン接種が行われていたが、来年度から妊婦を対象に定期接種が始まると伺っている。本市における今後の課題について伺う。	
				(2) ワクチンの公費助成の必要性について	ア) 他市町の事例ではRSウイルスワクチン公費助成を導入されているが、本市でも必要に応じて対応すべきと考えるが所見を伺う。	
福祉	②	三輝会	月橋 寿文	3 医療的ケア児への支援について	(1) 「保護者の声」に対する市の考え方について	ア) 「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（医療的ケア児支援法）」は、2021年9月18日に施行された。この法律により、国・自治体・教育機関・医療機関などの支援体制と役割が明確化され、国および地方自治体が医療的ケア児とその家族を支援する責務を負うことが定められた。この法律を踏まえ伺う。市内には児童を含む数名の方が医療的ケアを受けていると聞いているが、以前の答弁で「保護者の意見は直接把握していない」とのことであった。この点について、どのようにお考えか伺う。
				(5) 専門的看護師の育成について	ア) 医療的ケア児に対応できる看護師を育成するには、「専門研修の充実」「実地経験の機会」「資格取得支援」「地域内連携」が重要である。これらの観点から、どのような取組を進め、専門的な看護師の確保を図っていくのか伺う。	

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

福祉	⑥	清友会	宍戸 稔	1 将来に向けた介護保険制度の持続可能性について	(1) 介護保険事業の現状、課題、今後の方針・改善策について	ア) 介護保険財政の現状と見通しについて伺う。
						イ) 介護人材の確保と定着について伺う。
						ウ) 地域包括ケアシステムと地域支援体制について伺う。
						エ) 介護予防・軽度支援の取組について伺う。
						オ) 利用者・家族支援とサービスの格差について伺う。
					(2) 国への要望について	ア) 介護人材不足、介護報酬の改善について伺う。
	⑫	公明党	中原 秀樹	1 障がい者の社会的包摶に向けた課題と展望について		イ) 訪問介護の身体介護と生活支援の一体化について伺う。
						ウ) 要介護1、2の総合事業への移行について伺う。
						ア) 本市では、合理的配慮の観点から市民に対してどのような取組や支援をされているのか伺う。
						イ) 聴覚障がい者へのコミュニケーションの取り方について、本市ではどのように理解し対応されているのか伺う。
						ア) 見た目には障がい者と理解されがたい時に合理的配慮が受け易い環境として本市ではどのような取組をされているか。
						イ) 防災の面では避難情報や警戒情報などが理解しにくいことがあると聞く。障がい者の方が避難所へ避難する想定に対して、福祉の面での課題や想定されている取組について伺う。
	⑬	民主党	中野 哲也	1 障がい者の社会的包摶に向けた課題と展望について		ウ) 高齢難聴者のフレイル予防の観点から補聴器に対する助成交付金や、若くして難聴を発症するケースがあるため早期発見のスクリーニングなどが有効とされているが本市の考えを伺う。
						エ) 手話を言語にされている方においては、日本語の文法が理解出来ないことがあるため、日本語で書かれている広報誌や文書などの合理的配慮について課題や取組について伺う。
						ア) 県・市町においては情報及び意思疎通に関する条例と手話言語に関する条例の2つを制定されていることが多いになっている。広島県においては条例制定に至るまでに多くの障がい者団体とヒヤリングをかさねてこられているが、三次市では障がい者団体とのヒアリング等どのような取組をされてきたのか伺う。
						イ) 「広島県障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する条例」の制定により、障がい者の意思疎通に対する環境整備が整ってくるものと理解するが、本市で情報及び意思疎通に関する制定を考えいくには、多くの団体の理解はもちろんのこと、意思疎通支援者の養成や企業の職場環境改善、教育環境の整備なども盛り込まれることが必要と考える。課題解決に向けての取組と条例制定への考えについて伺う。
	⑭	立憲民主党	中野 哲也	1 障がい者の社会的包摶に向けた課題と展望について		ア) 手話は世間に理解されなかった厳しい歴史があるが、県の条例が制定されたことで“手話は言語である”という理解が広がることが予想される。手話が日常生活で市民に理解され、多くの機会で手話が使用される社会になることが望まれるが、本市の今後の方針について伺う。
						イ) 手話は言語であることを改めて認識する動きが全国的に進んでおり、その流れの中で本市でも手話をより広く認知される機会が増えていくことが予想される。手話の普及を通じて、多様なコミュニケーションの実現を目指す取り組みが今後ますます重要となるだろう。

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

福祉	⑫	公明党	中原 秀樹	1 障がい者の社会的包摶に向けた課題と展望について	(4) 広島県手話言語条例が成立されたことによる本市の今後の方針について	イ) 共生社会を目指す三次市として情報及び意思疎通に関する条例の制定とともに手話言語に関する条例を制定することについての考え方を伺う。
	⑬	真正会	鈴木深由希	2 障がい者・高齢者福祉施策について	(1) 「広島県手話言語条例」及び「広島県障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する条例」制定を受け、本市の取組について	ア) 平成30年12月定例会に「三次市手話言語の普及及び障害の特性に応じた多様なコミュニケーション手段の利用促進に関する条例（案）」が提出、継続審査となり平成31年3月定例会で前市長より事件撤回が申し渡された。 撤回の理由並びに、その後7年を経過しているが、その間の障害者福祉施策について伺う。
						イ) 令和3年に障害者差別解消法改正、事業者による障がいのある人への「合理的配慮の提供」が義務づけられ令和6年4月施行された。 ア) 日常の生活、就労面、教育現場、社会的障壁が取り除かれているといえない。 第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画にあるデータから読み取れる障害者の実情、苦悩を分析しているが、それに対する施策の成果を伺う。
						ウ) 少子高齢化、人口減少の課題解決の一助に、差別を生まない福祉、市民が穏やかな日常をおくれる充実した福祉の実践があると考える。本市の福祉施策の方向性について市長に伺う。
					(2) 高齢者向けGPS端末無料貸与の現状について	ア) 認知症の高齢者たちが行方不明になるのを防ぐため、令和8年4月本格導入に向け、身に付ける小型の衛星利用測位システム（GPS）端末の無料貸与を9月から3月末まで先着順で25名程度を対象に、試験的に取組んでいる。端末のシステムと費用、応募状況等伺う。
	多文化・共生	三輝会	月橋 寿文	1 多文化共生のまちづくりについて	(1) 市のめざしている多文化共生のまちづくりについて	ア) 現在、三次市には900人を超える在住外国人の方がおられ、人口の約2%を占めている。国別ではフィリピンとベトナムの方が各200人程度と最も多く、続いて中国とミャンマーの方がそれぞれ約60人となっている。 ア) 私は英語をはじめとする外国語を話すことはできないが、国際交流活動を通じて、最も大切なのは、お互いを認め合い、理解し合う姿勢だということを学び、感じている。同じ地球上に暮らす仲間として、言葉の壁を越えて心でつながりたいと願っている。そういう思いを胸に伺う。 市の目指している、多文化共生のまちづくりとは、どういったものか。
					(2) 「やさしい日本語」などの多言語への対応について	ア) 「やさしい日本語」で行政情報や生活案内を提供できているか伺う。
					(3) 日本語学習支援の実施について	ア) 「みよし日本語教室」は週2回開催されており、火曜日は三次市生涯学習センター、木曜日はみよしまちづくりセンターで実施されている。近年、学習希望者が増加していると聞いているが、その現状について伺う。 イ) 日本語学習支援スタッフの登録者数は34名と聞いているが、「みよし日本語教室」は十分に体制が整い、充実した学習環境となっているのか伺う。
					(4) 外国人のための相談窓口利用状況等について	ア) 市では、毎週木曜日にみよしまちづくりセンターにおいて外国人住民を対象とした生活相談を受け付けており、あわせて定期的に出張相談や人権相談も実施されている。 そこで、これらの相談窓口には具体的にどのような内容の相談が多く寄せられているのか伺う。
					(5) 地域とのつながりの創出について	ア) 本年、三次国際交流協会主催による第1回国際交流パーティーが開催され、多くの方々が参加された。初めて参加した日本人の方も見られ、交流の輪が広がった。 また、神杉大田植では、多くの外国人の方が早乙女として参加し、地域とのつながりを深める機会となつた。 こうした活動を踏まえ、市では地域コミュニティや住民自治組織との連携をどのように進めておられるのか伺う。
					(6) 「多文化センター」の創設について	ア) 三次市独自の市民ボランティア制度である「地域スマホセンター」や「わんにゃんセンター」は、市民参加による先進的な取組として高く評価している。 そこで、同様の仕組みを活用し、「孤立防止」や「地域とのつながりづくり」の観点から、在住外国人の相談や生活支援を行う「多文化センター」を創設する考えはないか伺う。

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

⑨	明日への風	徳岡 真紀	3 多文化共生の推進と、誰一人取り残さない地域づくりについて	(1) 多文化共生の推進について	—
				(2) 増加する外国人の現状への対応について	—
				(3) 多文化共生に関する指針や計画の必要性について	ア) 外国人の就労支援について伺う。 イ) 本市の多文化共生に関する指針策定への考え方はないのか。
				(4) 多文化共生推進における具体的な取組について	ア) 相談窓口の周知と相談員の設置について伺う。
				(5) 外国にルーツを持つ児童生徒の現状について	キ) 多文化共生人材のバンク登録制度について伺う。

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

安全で快適な生活環境		分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
自然環境	生活基盤							
						—	—	
		③	三輝会	藤井憲一郎	1 建設業の現状と課題について	(1) 建設業者の減少による影響について (2) 安定的、持続的な入札制度のあり方について	ア) 若年層の就業人口減少について伺う。 イ) 建設事業の需要や地域特性について伺う。 ウ) 道路維持管理について伺う。 ア) 地元建設業者が安定的・持続的に活動出来る環境整備について伺う。 イ) 庄原モデルについて伺う。	
		②	三輝会	月橋 寿文	1 多文化共生のまちづくりについて	(2) 「やさしい日本語」などの多言語への対応について	ごみの正しい出し方に関するパンフレットは、インドネシア語、ベトナム語、ポルトガル語、英語、韓国語、中国語の6言語で作成されている。一方、近年、市内ではミャンマー語（ビルマ語）やフィリピン語（タガログ語）を母語とする住民も増加している。そこで、これらの言語を追加する必要性について、どのようにお考えか伺う。 ウ) ごみの正しい出し方が分からない外国人の方に対しては、どのような方法で指導を行っているのか伺う。	
		④	清友会	山田真一郎	1 三次市の地域公共交通について	(1) AI活用型オンデマンドバス事業の取組について	ア) 市街地循環バスくるるんとの違いについて伺う。 イ) 乗車目標について伺う。 ウ) 出発式や説明会等の事前アピールについて伺う。 エ) 運行日や時間帯について伺う。 オ) 乗降ポイントはどうなるのか。 カ) 乗車予約はどの様に行われるのか。 キ) 三次駅や市立三次中央病院へ利用できるのか。 ク) タクシーやバス会社との協議について伺う。 ケ) 地元連携の考えについて伺う。	

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

生活基盤	⑤	清友会	重信 好範	3 JR芸備線の存続について	(1) JR芸備線実証事業の分析等について	ア) 列車の増便や各地でイベントなど行われたが、実証実験の進捗状況からみての課題を伺う。
						イ) 実証実験の今後の展望を伺う。
						ウ) 市内の高校生、中学生の意見を聞くなどして今後の展望にいかせないか伺う。
					(2) 今後の利用促進策について	ア) 利用促進につながるようふるさと応援交付金の考えはないか伺う。
						イ) 鉄路を活用した避難訓練を国・県へ要望できないか伺う。
	⑫	公明党	中原 秀樹	2 市道の維持管理及び安全管理について	(1) 松枯れ、ナラ枯れ等の危険木伐採対応について	イ) 安全管理の観点から市道に隣接した危険木の対応として市道での倒木事故は市の責任と認識している。危険木が私有地である場合の所有者への注意喚起は市として取り組んでいるのか伺う。
					(2) 道路支障木伐採作業報償費制度の見直しについて	ア) 高齢化及び人口減少の山間部地域では、支障木の伐採作業が大きな課題になっている。これまで常会単位で行うことも可能であったが、近年人力での活動が負担になり参加者も激減、市にお願いしてもなかなか取り合ってもらえないとの声がある。市全体で管理基準があり、交通量に対して維持管理の比率が決められているのか、市の考えを伺う。
						イ) 山間部に住んでいる方においては、日常生活で通行の妨げになる倒木や枝木については報償費の概念はなく自分たちの為と管理している。路線を管理する委託業者が対応するとなると時間もかかるし予算範囲で限定されてしまう。この取組が地域の協力で地域を守る施策であるならば、人件費を上げて参加者を増やすか、作業機械費を増額して少ない人数でも出来る基準に変更していくことが必要ではないか考えを伺う。
					(3) 市道通行止め状況の情報提供について	ア) 三次市ホームページの通行止め情報の定期的なアップデートの必要性について伺う。
						イ) 倒木や落石などが原因で長期通行止めになることがあるが、近隣住民への対応や迂回路の案内など安全管理対策などの取組をされているのか伺う。
					(4) 道路環境の変化に準じた案内表示の申請及び修正対応について	ア) 道路の案内表示が道路改良などの状況変化で現状に合わない、また経年劣化した看板に対して整備や新設看板設置などの維持管理について市の考えを伺う。
防災減災・安全	⑤	清友会	重信 好範	2 安全安心な地域づくりについて	(1) 市民の防犯意識を高める対策について	ア) 今年6月の一人暮らし高齢者の庄原市東城町での事件を受けて防犯意識を高める必要があるが、防犯意識を高める取組を伺う。
						イ) 平時からの市民への防犯対策の自助、共助、公助の取組を伺う。
						ウ) 市内全域における効果的な防犯対策として防犯カメラ設置計画を伺う。
						エ) 防犯カメラ設置費用一部補助等について伺う。
						オ) 特殊詐欺の被害にあわない更なる啓発活動の取組を伺う。

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

防災減災 ・安全	⑥	清友会	宍戸 稔	2 災害に強いまちづくりについて	(1) 「災害に強いまちづくり」の進捗状況について	ア) ハード・ソフト両面の災害対策について、現時点での進捗状況と課題について伺う。
					(2) 人口減少下での自助、共助、公助の機能維持について	ア) 人口減少、高齢化が進む中での役割分担、連携の在り方について伺う。
					(3) 防災基本条例の制定について	ア) 「尊厳」を理念の中に入れた防災基本条例の策定について伺う。 イ) 尊厳を守る防災として、避難所環境・情報保障・要配慮者支援など定義づける必要性について伺う。
	⑨	明日への風	徳岡 真紀	2 多文化共生の推進と、誰一人取り残さない地域づくりについて	(4) 多文化共生推進における具体的な取組について	イ) 防災・災害等緊急時の取組について伺う。
						ウ) ハザードマップの多言語化の必要性について伺う。
						エ) 防災士などと協力して講座など外国人向けの防災教室など開催する必要があると考えるがいかがか。
						オ) 宗教的配慮の必要な備蓄品の整備について伺う。
	⑬	真正会	鈴木深由希	2 障がい者・高齢者福祉施策について	(3) 音声による防災ハザードマップの導入について	ア) 災害時の避難情報や危険箇所を現在地で読み上げるサービス「耳で聞くハザードマップ」を仙台市が導入した。視覚障害者や外国人に的確に情報を提供し、迅速な避難に役立つ無料アプリである。災害時一番大切なのは迅速な避難行動に繋がる情報伝達であることから、本市でも導入を検討してはどうか。

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

子どもの未来応援						
分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
子育て	②	三輝会	月橋 寿文	3 医療的ケア児への支援について	(2) 保育所の受け入れ体制と現状、今後の対応について	「三次市こども計画」では、「医療的ケア児の支援」として、保育所に看護師を配置し、医療的ケアが必要な児童の受け入れを行うことが明記されている。専門的な看護師の確保が難しく、保護者の協力により保育を行っている状況と伺っているが、この現状をどのように受け止め、今後どのように対応していくのか伺う。
						イ) 保護者の送迎負担を軽減し、子どもの社会参加や発達支援を目的とする「障害児通園支援」について、本市での導入を検討しているか伺う。
	⑨	明日への風	徳岡 真紀	1 こどもまんなか社会の実現に向けた子どもの権利条例の制定について	(1) 三次市こども計画策定後のことどもまんなか社会の取組について	—
					(2) 子どもが権利の主体であることの啓発について	ア) 現在行われている子どもが権利の主体であることについての啓発や情報提供の取組について伺う。
					(3) 「子どもの権利」についての理解促進の取組について	ア) 現在行われている「子どもの権利についての理解促進」の取組について伺う。
					(4) 子どもたちの意見表明の機会の確保について	ア) 子どもの意見表明の機会の確保の現状を伺う。 イ) 子どもの意見表明の取組を制度化する予定はないか。
					(5) 子どもの権利条例の制定について	ア) ことどもの権利条例を制定する考えはないか伺う。 イ) 子ども子育て会議やこども会議の定期的な開催について伺う。
教育	①	三輝会	横光 春市	1 学校再配置と地域づくりについて	(1) 学校再配置に係る諸課題の解決とめざす教育について	議案第47号三次市学校設置条例の一部を改正する条例（案）が提出され、修正案が賛成多数で可決され、三次市立君田中学校は条例から削除されていないにもかかわらず、令和8年4月からは休校とされ、在籍している生徒は三次中学校へ通学することとなる。 教育委員会の決定においてこの措置は市民の最大の疑問点である。この法的な根拠を伺う。
						イ) 令和7年度学校区域自由化の制度を活用された児童・生徒数と、市外へ勉学の場を求められた生徒数は何人か。その理由も含めて伺う。
						ウ) 学校再配置計画は、何を基準にして、年度ごとにどの学校を再配置すると計画されたのか伺う。
						エ) 君田中学校の再配置を令和8年4月とされたのは、少し期間が短いと考える。なぜそこまで急いだ再配置計画にしたのか、それとも当初からの計画だったのか伺う。
						オ) 複式学級は教育の原点という意味合いがある。そうした中で、三次市の学校再配置計画では、完全複式にならないような学校再配置をめざしている。双方を比較して、三次市のめざす教育について伺う。
						カ) 児童・生徒数は1クラス何人位いれば、児童・生徒の話し合いの中で一方的な方向に進まないで、多様な意見の中で課題解決が出来ると考えるか伺う。

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

教育	①	三輝会	横光 春市	1 学校再配置と地域づくりについて	(2) 中学校再配置に関する意見要望書に対する市の所見について	ア) 学校再配置によって閉校予定の三和小学校から、再配置前に、通学区域自由化制度を活用して塩町中学校に入学を希望した場合には、優先的に入学させてはと考えるが、市の所見を伺う。
						イ) 再配置までの2年間、現在の5年生・6年生の三和小学校の児童が、通学区域自由化制度を利用して塩町中学校へ入学を希望した場合、通学費は高額となる。再配置後はスクールバスを運行する計画であるが、移行期間である2年間、バス代を半額でも助成すべきと考えるが市の所見を伺う。
				2 小規模特認校について	(1) 小規模特認校の具体的な内容について	ウ) 制服や文房具などを学校再配置後も使用可能になると説明しているが、1・2年で誰も着なくなる制服や体操服などを購入して着用するのではなく、三和中学校へ通うときから、塩町中学校の制服や体操服などの学用品もあわせて選択できるようにして欲しい旨の意見要望もある。 PTAの要望をかなえるべきと考えるか、所見を伺う。
						ア) (仮称) 入校検討委員会で「入学、転入が適当であると判定された児童」とあるが、その判定は何をもつて判定されるのか基準が分からぬ。来年8月の学校説明会は、どのような児童を対象に説明会を開催されるのか伺う。
						イ) 「小規模特認校」を何処に設置する予定なのか伺う。
	②	三輝会	月橋 寿文	1 多文化共生のまちづくりについて	(3) 日本語学習支援の実施について	ウ) 外国につながる子どもたちを対象にした放課後学習支援をしていく予定はないか伺う。
				3 医療的ケア児への支援について	(3) 小中学校の受け入れ体制と現状、今後の取組について	ア) 「三次市第2期障害児福祉計画」では、医療的ケア児の支援を重要施策として位置づけ、障害児支援の充実、相談支援体制の整備、インクルーシブ教育の推進などを重点項目に掲げている。小中学校における現在の受け入れ体制や状況について伺う。
						イ) 保護者の負担軽減と、障害のある子どもの学校生活の継続を支える福祉の支援として、全国で導入が進む「障害児登下校通年支援」について、本市での導入を検討しているか伺う。
	④	清友会	山田真一郎	2 三次市における、こども達の教育環境について	(1) 三次市立十日市小・中学校改築事業の取組について	ア) 新校舎と小学校体育館への動線について伺う。
	イ) 新校舎と中学校体育館への動線について伺う。					
	ウ) 登下校時の保護者送迎等への対策について伺う。					
	エ) 新校舎での教室の配置の考えはないか。					
	オ) トイレはどのように設置するのか。					
	カ) 着替えはどのように行うのか。					
	キ) 生徒・児童の玄関はなぜ1カ所なのか。					
	ク) いじめ・不登校等の心のケアの配慮について伺う。					
	ケ) 地域連携への工夫について伺う。					

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

教育	④	清友会	山田 真一郎	2 三次市における、こども達の教育環境について	(1) 三次市立十日市小・中学校改築事業の取組について	コ) 浸水地域ゆえの対策について伺う。
						サ) 近隣住民への配慮について伺う。
	⑧	明日への風	増田 誠宏	2 教育環境に係る諸課題について	(1) 小中学校の学力の現状から見える課題について (3) 放課後児童クラブの民間委託と土曜日開所の集約に伴う今後の取組について (4) 小中学校の再配置に伴う諸課題への対応について	ア) 英検3級相当到達率の低下の要因とどのような改善施策を検討しているのか。
						イ) 英語検定受験支援制度の縮小が与えた影響と再拡充が必要ではないか。
						ウ) 全国学力・学習状況調査の結果を分析した上で、どの課題を優先的に改善すべきと考えているのか。
						エ) 小規模校における学力成果と再配置後においてどのように学習支援体制の強化を図っていくのか。
						オ) 指導力の高い教職員の配置をどのように確保していくのか。
						ア) 土曜日の集約について、家庭・地域への影響を踏まえて今後どのようにしていくのか。
						イ) 支援員の雇用継続と、民間委託後の質の管理や改善指導をどのように行うのか。
						ウ) 教育行政の中でどのようにDX推進と人材育成を進めるのか。
						エ) 早期に必要な施設整備を進めるべきではないか。
						オ) 公募の公平性を担保し、幅広い事業者が参加できる仕組みを整えるべきではないか。
	⑨	明日への風	徳岡 真紀	2 子どもの命や尊厳を守るためにの取組について	(1) 学校における性暴力の防止対策について	カ) 将来に向けてより良い児童クラブとなるよう合意形成の場を設ける必要があるのではないか。 ア) 旧町村地域における出生数や移住定住について、十分に分析した上で政策判断を行っているのか。 イ) 希望する地域においては、地域全体で子育て支援や学びの継続を支える仕組みづくりに取り組むべきではないか。 ウ) 学校を核とした地域再生の可能性を見出し、再配置の進め方を再考する余地があるのではないか。 エ) 地域・保護者の意見集約と合意形成に向けた支援を行うべきではないか。

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

教育	⑨	明日への風 徳岡 真紀	2 子どもの命や尊厳を守るための取組について 3 多文化共生の推進と、誰一人取り残さない地域づくりについて	(1) 学校における性暴力の防止対策について	イ) ガイドラインなどを周知し、研修等行われているか、その内容や頻度について伺う。	
					ウ) 相談窓口の周知の徹底と相談しやすい環境づくりについて伺う。	
					エ) 「子ども性暴力防止法」の制定による本市の取組の予定について伺う。	
				(2) いのちの授業のさらなる充実について	ア) 現在行われているいのちの授業の現状を伺う。	
					イ) すべての保育所、小中高等学校で命の安全教育を包含した命の授業を行うことができないか伺う。	
				(5) 外国にルーツを持つ児童生徒の現状について	ア) 外国にルーツを持つ児童生徒の現状について伺う。	
					イ) 不就学児童生徒について伺う。	
					ウ) 個別の状況に配慮した学習支援について伺う。	
					エ) 外国にルーツをもつ子どもたちへの人権的配慮について伺う。	
					オ) 学校での国際理解や多文化教育の取組について伺う。	
					カ) 外国人も学ぶことのできる夜間中学併設の学びの多様化学校の設置について見解を伺う。	
	⑩	会派 未来	竹田 恵	3 放課後児童クラブの民営化について	(1) 支援員との協議状況と今後のスケジュールについて	ア) 支援員との協議状況を踏まえ、課題をどう捉えているか伺う。
	イ) 今後のスケジュールについて伺う。					
	⑪	会派 未来	新田 真一	1 学びの多様性を保障する教育環境整備の取組について	(1) 学びの多様化学校の開設のスケジュール等について	ア) 不登校児童・生徒、不登校傾向にある児童生徒の現状はどうか。
	イ) 学校新設までのスケジュールと現状について伺う。					
	ウ) 開校までの準備スケジュール等について ・対象とする児童生徒について伺う。 ・対象とする生徒・保護者への周知等は計画的に進められているのか伺う。					
	エ) 通学の手立てと支援について伺う。					

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

教育	⑪	会派 未来	新田 真一	1 学びの多様性を保障する教育環境整備の取組について	(2) 小規模特認校の開設に伴う諸課題について	<p>ア) 過小規模（複式学級）では教育効果はあがらないのか、見解を伺う。</p> <p>イ) 「大きな集団になじみにくい」児童・未就学児の把握はできているか、また、不登校児童、不登校傾向の児童と集団になじみにくい児童の違いはなにか見解を伺う。</p> <p>ウ) 小学校の多様化学校との違いはなにか。</p> <p>エ) 入学検討委員会はどのような場合に開き、何を基準に入学を決定するのか伺う。</p> <p>オ) 小規模特認校は、学校と地域が実践を継続している中で、それを評価し他の学区から入学を希望するものであると考えるか、いかがか。</p> <p>カ) 小規模特認校と小学校の学びの多様化学校は違うととらえる。小学校の多様化学校の開設の考えはないか伺う。</p>
				2 教育委員会会議・総合教育会議での議論の必要性について	(1) 新たな学校の開設、教育委員会の行つた地域・保護者説明及び市長の行ったまちづくりトークでの課題における再協議の必要性について	<p>ア) 新たな学校の開設・再配置計画の今後の進め方について伺う。</p>
	⑭	日本共産党	伊藤 芳則	1 小中学校の再配置について	(1) 小規模特認校設置に伴う諸課題について	<p>ア) 「大きな集団での生活・学習になじみにくい児童を対象」に限定することでは小規模特認校とはいえないのではないか。</p> <p>イ) 教師への負担が大きくなるのではないか。</p> <p>ウ) 転入・入学者が集まるのか。</p> <p>エ) 地元の児童が行けないなら、地域との連携は出来なくなるのではないか。</p> <p>オ) 11月12日の地元の回答をどのように受け止めるのか。</p>

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

豊かな心といきがい						
分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
芸術・文化				—	—	
スポーツ				—	—	

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

いきいきとした地域						
分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
定住・交流	③	三輝会	藤井憲一郎	4 地域づくりについて	(1) 「ツナガリ人口」の拡大に向けての市の考え方について	ア) 全庁各部局の意識について伺う。 イ) 「協働・共創のまちづくり」に基づく住民自治のめざす姿について伺う。
	⑩	会派 未来	竹田 恵	1 三次市における定住移住対策の充実について	(1) 移住支援金制度の活用状況と課題解決に向けた取組について	ア) 今年度の移住定住に関わる相談件数、相談内容、申請件数について伺う。 また、そのうち移住支援金に係る相談件数、相談内容、申請件数について伺う。 移住支援金制度の課題について イ) ・居住区域、在住年数、業種などの課題について、関係機関との協議内容について伺う。 ・申請緩和となった事項について伺う。
住民自治	①	三輝会	横光 春市	1 学校再配置と地域づくりについて	(3) 学校再配置に伴う地域支援について	ア) 6月13日の全員協議会で教育委員会が説明された学校再配置計画について、住民自治組織への説明等どのように対応されたのか伺う。 学校が閉校するため、合併前の行政区から学校が無くなるという衝撃的な地域もある。現在策定している「地域まちづくりビジョン」の変更を余儀なくされるので、市として、それぞれの住民自治組織に対して、指針を示すのではなく、あくまで情報提供を行い、自治活動を行うために何が必要なのか意見を聞いて、住民自治組織が求める情報を収集して提供し、場合によっては補助金的な支援も検討が必要だと考えるが、執行部としての所見を伺う。
	⑦	清友会	保実 治	2 周辺地域のまちづくりについて	(1) 過疎対策と今後のまちづくり支援について	ア) どのように進めていくかとしているのか、市長の考えを伺う イ) 対策への提案（教育・子育て・害獣等）について見解を伺う。
	⑨	明日への風	徳岡 真紀	2 多文化共生の推進と、誰一人取り残さない地域づくりについて	(4) 多文化共生推進における具体的な取組について	キ) 住民自治組織との連携について伺う。

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

活力ある産業						
分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
農林畜産	③	三輝会	藤井憲一郎	2 全国で頻発している熊被害への対策について	(1) 本市での出没状況や被害防止策について	ア) 本市での目撃者の推移や被害について伺う。
						イ) 餌となりうるゴミや果樹の剪定について伺う。
						ウ) 罠や捕獲器の設置について伺う。
						エ) 熊対策用音響装置などの活用について伺う。
						オ) 市民の意識向上と協力体制の構築について伺う。
						カ) 専門家による駆除と生態調査について伺う。
	⑦	清友会	保実 治	1 害獣とまちづくりについて	(1) 緊迫する熊被害に対する市の認識について	ア) 全国的に問題となっているが市の認識について伺う。
						イ) 本市では関係部署への指示はどのようにされたのか。
					(2) 関係部署の危機対応について	ア) 対応について、各部署の対応について伺う。
					(3) 鳥獣保護管理法改正に伴う市の対応について	ア) クマやイノシシが市街地に出没した場合の通報・相談・対応の流れはどのようになるのか。
						イ) 緊急銃猟を実施する場合の指揮命令等は誰がして、住民の避難所の確保・道路などの交通整理は、誰がどのように実施するのか。
						ウ) 住民への周知が法的に義務付けられたが、どのように実施するのか。
						エ) 緊急猟銃実施等のチラシ作成の提案について見解を伺う。
	④	議連	山本 伸也	2 害獣対策について	(4) 増えるシカ等の現状とその対策について	オ) 捕獲奨励金はどのようになるのか。（クマ・イノシシ・シカ）
						ア) 4月から有害鳥獣による農作物被害対策の専門組織「テゴス」に加入したが現在の状況について伺う。
						イ) 4月25日、広島県北部森林管理署と本市が「シカ被害対策推進協定」を結んだが現在どのような状況なのか。
						ウ) 大型排水管を活用した効率的な保護個体の残渣処理の提案について見解を伺う。
						エ) 来年度に向けての準備と対策はどのように考えているのか。

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

農林畜産	⑫	公明党	中原 秀樹	2 市道の維持管理及び安全管理について	(1) 松枯れ、ナラ枯れ等の危険木伐採対応について	ア) 近年の異常気象に加えて、害虫の影響で松枯れやナラ枯れ、まき枯れなどが多く見受けられる。本市ではどのような対策を行われているのか。
商工	⑤	清友会	重信 好範	1 本市の就労支援等、みよしアントレーヌの取組の成果、就職氷河期世代等への支援策について	(1) みよしアントレーヌの成果と課題について	ア) 「起業・雇用・就労支援」この間の支援の成果と課題を伺う。 イ) 「みよしアントレーヌ」登録者数の推移から、支援利用者の声や課題について伺う。 ウ) 「みよしアントレーヌ」登録後の支援について伺う。
					(3) 就職氷河期世代を採用する企業への支援について	ア) 就職氷河期世代を積極的に採用する企業に対して支援制度を創設してはどうか伺う。
					(2) 本市の外国人の就労状況について	—
					(1) 移住支援金制度の活用状況と課題解決に向けた取組について (2) ひろしま奨学金返済支援制度導入企業応援補助金の活用状況等について	就労支援としての活用について ウ) ・市内事業所への周知方法について伺う。 ・就職学生支援事業補助金の活用について伺う。 ア) 市内における問い合わせの状況、導入企業数について伺う。 イ) 市内事業所への周知方法について伺う。 制度の拡充と財政負担について ウ) ・企業の負担軽減、人材不足解消にむけた制度の拡充について伺う。 ・制度の拡充に伴う財政負担について伺う。
観光	⑭	日本共産党	伊藤 芳則	2 中小商工業者への物価高騰に対する支援について	(1) 三次市起業支援事業補助金の条件緩和の必要性について	ア) 年齢制限の解除が必要ではないか。 イ) 昼の営業が必要なのか伺う。
					(2) 既存の事業者への支援で継続できる補助金の必要性について	—
					(4) 中小企業振興条例の必要性について	—
					—	—

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

その他		分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目		
分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目	分類	発言順		
	②	三輝会	月橋 寿文	2 市民窓口のDX施策について	(1) 「書かない窓口」システム導入の考えについて	ア) 「書かない窓口」は、市民と職員双方の負担軽減を目的に導入が進むシステムである。マイナンバーカードや運転免許証，在留カードなどを読み取り、住所・氏名・生年月日などを自動印字することで、住民は手書きの記入が不要になり、手続きがスムーズになる。また、顔認証による本人確認で、なりすまし防止や個人情報保護にも配慮している。こうした利便性の高いシステムの導入を検討しているか伺う。				
					(2) 「本庁・支所間オンライン相談窓口」の設置について	ア) 支所には日々さまざまな相談が寄せられるが、対応が難しく本庁の担当課へ問い合わせるケースも多くある。そこで、市内7か所の支所と本庁をオンラインでつなぐ「本庁・支所間オンライン相談窓口」を設置すれば、支所から本庁職員と対面に近い形で相談できるようになる。住民の移動負担を軽減するためにも、このような仕組みの導入を検討する考えはないか伺う。				
	③	三輝会	藤井憲一郎	3 来年度の予算編成について	(1) DX推進事業の課題と今後の取組について	ア) 二期目の最終年、最後の予算編成にあたり市長として三次市の課題を何と捉えているか。				
						イ) SHIBUYA QWS活用事業について伺う。				
	⑤	清友会	重信 好範	1 本市の就労支援等、みよしアントレーヌの取組の成果、就職氷河期世代等への支援策について	(2) 合併特例債・過疎債無き後の本市の財政計画について	ア) 「三次市過疎地域持続的発展計画」前期5年計画の総括について伺う。				
						イ) 後期計画策定の作業状況とスケジュールについて伺う。				
	⑧	明日への風	増田 誠宏	1 本市の財政状況と来年度予算の編成に向けて	(1) 本市の財政状況について	ア) 財政健全性の総合的な認識を問う。				
						イ) 財政指標について市民の理解を得る必要があるのではないか。				
					(2) 来年度予算の編成方針と長期財政計画の見直しについて	ア) シーリング率の設定と新規事業創出に向けての見解を伺う。				
						イ) BPR（業務改革）について具体的にどのような取組を検討しているのか。				
						ウ) 地域経済の実情を踏まえ、ある程度積極的な財政運営も必要ではないか。				
						エ) 大型ハード事業への市民の財政的懸念を踏まえてわかりやすい説明と情報発信が必要ではないか。				
						オ) 財政運営の透明性と信頼性の確保のため、定期的な長期財政運営計画の改定が必要ではないか。				

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年12月定例会】

その他	⑧	明日への風	増田 誠宏	1 本市の財政状況と来年度予算の編成に向けて	(3) 病院事業会計および下水道事業会計の健全化に向けた取組について	ア) 特別会計及び企業会計の自律的運営に向けてどのような新たな取組を検討しているのか。
						イ) 病院事業会計の基準内繰入金をどのように考えていくのか。
						ウ) 下水道事業会計における高金利の企業債の現状と事業にどのような影響を与えているのか。
						エ) 積極的な繰上償還により事業会計の早期安定化を図るべきではないか。
	⑩	会派 未来	竹田 恵	4 職員の採用・配置・待遇について	(1) 現在の三次市、市立三次中央病院の職員数に対する課題等について	ア) 業務と人員のバランスについて ・時間外勤務縮減・長期病休者への取組について伺う。 ・退職者数と採用予定者数及び専門知識を有する職員（薬剤師など）の採用状況について伺う。
						イ) 障がい者雇用の現状について ・現在の障がい者雇用率の現状について伺う。 ・採用試験に向けた見解について伺う。 ・安心して働ける職場環境づくりについて伺う。
						ア) アンケート回答回収結果の数値と内容について伺う。
						イ) 市民の声をどのように分析されたか伺う。
	⑬	真正会	鈴木深由希	1 「三次市まち・ゆめ基本条例」について	(1) 令和7年3月3日から6月30日実施の市民アンケートの検証について	ア) 施策の柱として位置づけを再確認する必要があるのではないか。
						イ) 従来の啓発で20年かかるても周知されていない事がアンケートからも検証されたと思う。具体策協議する機会がいかに設けられたか、決められたことを実行しているか伺う。
						ア) 市民の知る権利と取得する権利を履行するために、市が様々な情報を発信している手段について、それぞれの手段の有効性を伺う。
						イ) 広島ホームテレビと契約している「dボタン広報誌」の運営について導入の経緯と、担当部局の役割、周知の現状を伺う。
	⑭	日本共産党	伊藤 芳則	2 中小商工業者への物価高騰に対する支援について	(3) 国民健康保険税や市民税、固定資産税の滞納者への緩和（換価の猶予）の必要性について	—
						—
				3 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の事務手続き誤りについて	(1) 交付金の事務手続き誤りの顛末について	—
					(2) 受け取れなかった交付金の補填について	—
					(3) 今後の再発防止に向けた取組について	—
					(4) 交付金が受け取れなかつたことによる他事業への影響について	—